

RACE REPORT



**SUPER
FORMULA**

Round.04 **FUJI**

第4戦 富士スピードウェイ

2024年7月20日(土)

予選

天候：晴れ／曇り 路面：ドライ

#38 阪口 晴南

予選：12番手

#39 大湯 都史樹

予選：3番手

2024年の全日本スーパーフォーミュラ選手権は、いよいよシリーズも折り返し。富士スピードウェイでの第4戦を迎えた。チームにとっても慣れ親しんだコースでもあり、今回は『第1回瑤子女王杯』の冠もかけられ、予選日から大きな注目を集めるなかでの一戦となった。

そんなレースを前に、7月7～8日には富士で合同テストも行われ、第3戦 SUGO でのクラッシュでダメージを受けた阪口晴南の車両も修復されテストをこなしたほか、大湯都史樹もさまざまなデータを積み、しっかりと準備を整え7月20日(土)からのレースウィークに臨んだ。

PRACTICE フリー走行

迎えた予選日は、午前9時20分から1時間30分の土曜フリー走行がスタートした。早朝こそ曇り空だったものの、セッションが始まるころ晴れ間が見えはじめ、気温30度／路面温度35度というコンディションで始まった。

第3戦でのクラッシュで阪口の38号車は多くのパーツを交換していた状態だったが、合同テストの時点で車両がしっかり修復されていることを確認できており、そこで得られたセットアップを確認するべくコースインしていった。

しかし、阪口は周回を始めてすぐにステアリングに違和感を感じてしまう。一度ピットに戻ってから再度コースに入っただものの、やはり違和感がある。ステアリングは安全にも関わる重要な部分。開始から30分を過ぎたあたりから阪口車は大きかりな修復作業に入ることになってしまった。

幸い、セッションも残りわずかというところで再度コースインすることができ、阪口はニュータイヤを履きアタックシミュレーションを行うものの、やはりセットアップを進められていない影響か1分24秒213というベストタイムで12番手。予選に向けてさらなるセット改良が必要になった。

一方の大湯は、第3戦からの好調を合同テストで得られた良い部分を採り入れつつ、3～5周ほどのショートランを

行いながらセットアップを確認していった。大湯が気にかけていたのは、この時期コンディションが刻々と変化するところ。その変化を見越しながら、セットアップを続けた。

セッションも残りわずかとなったところで、大湯はニュータイヤを履き予選に向けたシミュレーションを行っていき、1分23秒723という好タイムを記録。2番手に食い込んでみせた。好フィーリングはこのフリー走行でも続いており、予選でのポールポジション獲得に向けてさらなるセットアップを進めていくことになった。

7月20日(土) 9:20～10:50 天候：晴れ 路面：ドライ
ベストタイム #38 阪口晴南 1'24.213 / #39 大湯都史樹 1'23.723



QUALIFY 公式予選

7月20日(土) 14:00～14:42 天候：曇り 路面：ドライ
ベストタイム #38 阪口晴南 1'23.323 / #39 大湯都史樹 1'22.571

雲が出てはいるものの、夏空のもと気温 32 度／路面温度 48 度というだるような暑さのなか迎えた午後 2 時からの公式予選。VERTEX PARTNERS CERUMO・INGING の 2 台のうち、まずは阪口晴南が公式予選 Q1 の A 組に臨んだ。

阪口は一度コースインした後、予選に向け変更したセットアップを確認。フリー走行の周回が少ない状況ながら、エンジニアがきっちりと予選に向けてフィーリングを改善させていることを確認すると、ピットに戻りニュータイヤを履き再コースイン。チェッカー周に向けてタイヤをウォームアップさせアタックラップに入っていく。

ここで阪口は 1 分 23 秒 323 というタイムを記録。4 番手に入り、Q2 進出を果たしてみせた。ただ A 組トップの車両とは 0.543 秒の差がある。Q2 に向けてこれをどう縮めていくかが課題となった。

続いて、午後 2 時 15 分から行われた B 組に出走したのは大湯都史樹。阪口同様コースイン後一度ピットに戻り、残り時間 5 分を切ったタイミングで再度コースイン。アタックに入っていた。

合同テストを経てフリー走行から予選に向けたコンディション変化へのデータを蓄積していた大湯は、セットアップも高レベルで決まっており、アタッカー閃。わずかにトップには及ばなかったものの、1 分 23 秒 078 までタイムを縮め 2 番手につけてみせる。この結果で VERTEX PARTNERS CERUMO・INGING は、2 台がともに Q2 に進出することになった。

10 分間のインターバルを経て、迎えた Q2。阪口、大湯ともにわずかな時間を使ってさらなるセットアップ改善を進めアタックに入っていくが、阪口にとっては思わぬ Q2 となってしまった。

セクター 2 では感触が良くなかったものの、セクター 3 でのフィーリングも良くなり、好タイムを狙って最終パナソニックコーナーを立ち上がった阪口だが、その瞬間、ミッショントラブルが起きてしまう。駆動を失い、阪口はピットに戻らざるを得なくなってしまった。結果は 1 分 43 秒 071 だが、Q2 に進出していたことで 12 番手を確保することになった。

一方の大湯は、Q1 から大幅にタイムを縮め 1 分 22 秒 571 という素晴らしいタイムを記録してみせる。しかし、結果は 3 番手。ポールポジションまでわずか 0.028 秒差というものだった。

極めて僅差のなかでポールポジションが届かなかったことにチームは悔しさを露わにしたが、一方であ товずかなところで最速の座が見えている。もちろん、決勝レースに向けて大いに勇気づけられるタイムであることも間違いない。

チームはさらなる高みを目指すべく、7 月 21 日(日)の決勝に向け準備を進めていく。

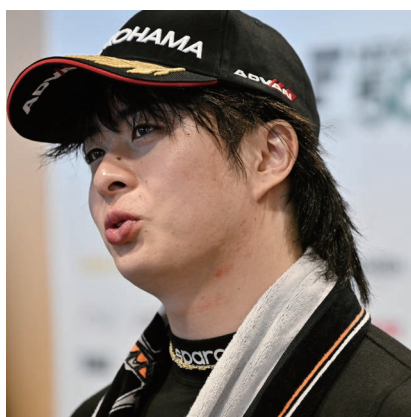


COMMENTS ドライバー／監督コメント



38 阪口 晴南 SENA SAKAGUCHI

「合同テストでクルマがしっかりと修復されていることは確認できたのですが、今日のフリー走行ではパワステのトラブルが出てしまって。最後に確認をすることができたのですが、感触はあまり良くなかったです。とはいえ、予選に向けてはかなり改善されていたのでQ1を突破することができ、Q2に向けてアジャストしたのですが、セクター2で少しQ1とは違う動きがあって。一方でセクター3は良かったのでタイムは出るかと思っていたのですが、ギアを失ってしまいました。中団グリッドになってしまいましたが、合同テストではロングランで良い感触もあったので、戦略なども模索しながら、1点でも多くポイントを獲れるよう頑張っていきたいと思います」



39 大湯 都史樹 TOSHIKI OYU

「テストではさまざまなメニューをこなすことができましたが、このところコンディションが刻々と変わる印象があったので、しっかりと状況に対応できるように準備をしてきました。その事前の準備をしっかりすることができたのが、今回のフリー走行から予選に向けたアジャストで良かったところなのだと思います。結果的に3番手で、惜しいタイムではあったのですが、クルマとしては『良くなっている』けど『良いね』にはまだなっていません。『良いね』にできるようにしたいですし、僕自身もタイム差を埋めるためにできたことがあったと思います。とはいえ上位からスタートできますし、決勝ペースにしっかり取り組み、少なくとも表彰台は獲りたいですね」



立川 祐路 監督 YUJI TACHIKAWA

「惜しかったですね！ 公式予選では誰がポールポジションでもおかしくない、本当にわずかなタイム差で大湯選手が3番手となりましたが、悔しい気持ちもありつつ、このポジションで悔しいと思える状況になってきたので、その点は明日の決勝でも期待ができるのではないかと思います。十分に優勝が狙えるポジションなので、この悔しい気持ちを明日の決勝にぶつけたいと思っています。一方で、阪口選手は朝のフリー走行からトラブルが出てしまい、セッアップをする時間をとることができない中でしたが、Q1を突破してくれました。Q2でまたもトラブルが出たのは残念でしたが、明日に向けてしっかりトラブルを直し、流れを変えたいと思っています」



RACE REPORT

RESULT リザルト

第4戦富士スピードウェイ 予選結果

Pos.	No.	Driver	Team	Engine	Q1	Q2
1	8	福住仁嶺	Kids com KCMG Elyse SF23	TOYOTA/TRD 01F	1'22.963	1'22.543
2	15	岩佐歩夢	Red Bull MOTUL MUGEN SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	1'22.780	1'22.560
3	39	大湯都史樹	VERTEX CERUMO・INGING SF23	TOYOTA/TRD 01F	1'23.078	1'22.571
4	36	坪井翔	VANTELIN TOM'S SF23	TOYOTA/TRD 01F	1'23.252	1'22.573
5	6	太田格之進	DOCOMO DANDELION M6Y SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	1'23.392	1'22.744
6	5	牧野任祐	DOCOMO DANDELION M5S SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	1'23.095	1'22.749
7	16	野尻智紀	Red Bull MOTUL MUGEN SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	1'23.306	1'22.792
8	3	山下健太	REALIZE Corporation KONDO SF23	TOYOTA/TRD 01F	1'23.221	1'22.807
9	64	山本尚貴	PONOS NAKAJIMA RACING SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	1'23.178	1'22.921
10	4	小高一斗	REALIZE Corporation KONDO SF23	TOYOTA/TRD 01F	1'23.408	1'22.947
11	37	笹原右京	VANTELIN TOM'S SF23	TOYOTA/TRD 01F	1'23.392	1'23.336
12	38	阪口晴南	VERTEX CERUMO・INGING SF23	TOYOTA/TRD 01F	1'23.323	1'43.071
13	7	小林可夢偉	Kids com KCMG Cayman SF23	TOYOTA/TRD 01F	1'23.505	
14	65	佐藤蓮	PONOS NAKAJIMA RACING SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	1'23.408	
15	19	平良響	ITOCHU ENEX TEAM IMPUL SF23	TOYOTA/TRD 01F	1'23.523	
16	20	国本雄資	ITOCHU ENEX TEAM IMPUL SF23	TOYOTA/TRD 01F	1'23.803	
17	50	木村偉織	San-Ei Gen with B-Max SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	1'23.704	
18	14	大嶋和也	docomo business ROOKIE SF23	TOYOTA/TRD 01F	1'23.808	
19	55	大津弘樹	TGM Grand Prix SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	1'24.247	
20	12	三宅淳詞	ThreeBond Drago CORSE SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	1'24.303	
21	53	Juju	TGM Grand Prix SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	1'24.940	